

どうする志布志市との合併

前向きに取り組み最大の努力をする



神崎 文男 議員

平成15年4月、曾於南部合併協議会が設置され、平成16年1月に同協議会から離脱しているが、町長が離脱した本意は何であったか。

住民総意ではなかった

町長

離脱までの経過をたどると、4町のあるべき姿、将来の構想がそれぞれあり、事務局を含めて検討したが、合意に至らなかった。一つは電算の問題で大崎町はIT化に早

く取り組んでおり、他の3町に合わせるには逆行する形となり合意できなかった。また、住民の意識の中でも合併は時期尚早だという意見が多数あり、大崎町を生かすことが出来る審議がなかった。

ので離脱の形になった。その後の住民投票で単独となり、6月定例会で決議された。

合併推進を訴えたか

神崎議員

前回の町長選で志布志市との合併推進を訴えたか。

県の動き・住民の意向を見て

町長

単独となり行財政改革の成果は上がっていると捉えているが、国・県も合併を進めている。県においても合併推進審議会を設置しながら推進していることを議員の皆さんに説明している。

住民負担が

多くなるのでは

神崎議員

一部事務組合等、このままで行くと負担が多くなるがどう考えているか。

住民負担が 少なくなるよう計画

町長

厚生組合等、10年計画を立て単年度に負担が増加しないように計画している。

本当に合併を

成立させられるか

神崎議員

3月以降、志布志市に出向いていないが、本当に合併を成立させられるか。

平成22年を目標に

考えている

町長

平成22年を目標に考えている。「合併が必ず成立するか。」について、これから真剣に進めていく。推進決議もされているので、相手の立場も十分尊重し前向きに取り組み最大の努力をしていく。

早く志布志市との 合併実現を

神崎議員

われわれは5年、10年、20年後と将来を見据え、

大崎町民が困らない状態を築きあげることが大事である。一日も早く志布志市に出向き、話し合いをすることを強く提言する。



4町による旧曾於南部法定合併協議会